

## 京都大学機械系工学教室の礎を築いた教授たちの肖像写真

牧野俊郎 (S47/1972卒)

吉田英生 (S53/1978卒)

われわれの京都大学機械系工学教室は、本年には創立から満123年を迎えようとしています。教室がますます発展していくためには、教室の未来を展望するとともに、ときには過去を振り返ってみるのがよいでしょう。そのときに、大学や教室が刊行してきた大学史・小史等[1-20]や建物の図面・写真等[3,7,10]は重要な資料になりますが、加えて、教室の礎を築いた方々の姿を知ることができればさらによいでしょう。そこで、筆者らは、大学創立のM30(1897)年からS37(1962)年までの間に京都大学工学部機械系工学教室の講座を担当された教授たちの肖像写真を求めここに示すことにしました。

そのM30(1897)-S37(1962)年の間に、京都大学は、京都帝国大学→(旧制)京都大学→(新制)京都大学と改称されました。工学部は、理工科大学→工科大学→工学部と改称されました。機械工学科は、機械系工学科(機械工学科・精密工学科・機械工学第二学科)に発展しました。加えて、S28(1953)年に新制の大学院が設置されて以降、学部課程と大学院課程を束ねる組織として教室という名称が用いられてきました。これらの呼称の変遷を年表的に示すと次のようになります。

M30(1897)	京都帝国大学の設置 理工科大学機械工学科の設置
T03(1914)	理工科大学を工科大学・理科大学に分離
T08(1919)	工科大学を工学部と改称
S22(1947)	京都帝国大学を京都大学と改称
S24(1949)	新制京都大学の発足
S28(1953)	新制大学院の設置
S35(1960)	精密工学科の新設
S37(1962)	機械工学第二学科の新設

S37(1962)年までの間には、教室は、教授1名・助教授1名・助手2名からなる‘112’の講座の数・その数に対応する教官ポスト数・学生数を増加させることができました。これは、教室の研究・教育を充実させる礎が築かれていったことに通じます。S37(1962)年までに教授に就任された方は、この意味で、努力が報われ幸運であったといえるでしょう。というのは、その後、政府はとくに人件費を極

力抑えるべく教官ポスト数の増を抑えながら講座数を増すという貧しい策をとるに転じたからです。ともあれ、M30-S34(1897-1959)年の間に設置された機械工学科の8講座とその担任教授のお名前を次の表に示します：

---

機械工学第一講座:M30(1897)
朝永正三 — 菅原菅雄 — 佐藤 俊 — 大東俊一
機械工学第二講座:M30(1897)
大塚 要 — 堀 覺太郎 — 西原利夫 — 河本 實 — 平 修二
機械工学第三講座:M30(1897)
朝永正三 — 金子 登 — 田伏敬三 — 神元五郎 — 森 美郎
機械工学第四講座:M32(1899)
松村鶴蔵 — 濱部源次郎 — 長尾不二夫
材料強弱学講座: M34(1901)→(改称)材料力学講座:S28(1953)
松村鶴蔵 — 西原利夫 — 河本 實
機械工学第五講座:M35(1902)
大塚 要 — 佐々木外喜雄
機械工学第六講座:T10(1921)
菊川清作 — 奥島啓式 — 佐々木外喜雄 — 大屋根守哉
機械工学第七講座:T11(1922)
藤本武助

---

以下に、大学創立のM30(1897)年からS37(1962)年までの65年—この記事の冒頭に述べた123年のほぼ半分—の間に京都大学工学部機械系工学教室の講座を担当された24名の教授の肖像写真を紹介します。お名前に続く担任講座のなかには、上表に挙げた機械工学科に属する講座に加えて精密工学科・機械工学第二学科に属する講座も含めています。



朝永正三 教授  
機械工学第三講座(M31-38)  
機械工学第一講座(M38-T15)



大塚 要 教授  
機械工学第二講座(M31-43)  
機械工学第五講座(M43-S04)



松村鶴蔵 教授  
機械工学第四講座(M34-38)  
材料強弱学講座(M38-S06)



金子 登 教授  
機械工学第三講座 (M38-S05)



堀 覺太郎 教授  
機械工学第二講座 (M43-T07)



濱部源次郎 教授  
機械工学第四講座 (T06-S14)



菊川清作 教授  
機械工学第六講座 (T11-S20)



西原利夫 教授  
機械工学第二講座 (T14-S07)  
材料強弱学講座 (S07-28)  
材料力学講座 (S28-32)



菅原菅雄 教授  
機械工学第一講座 (S06-34)



田伏敬三 教授  
機械工学第三講座 (S08-21)



藤本武助 教授  
機械工学第七講座 (S14-17)



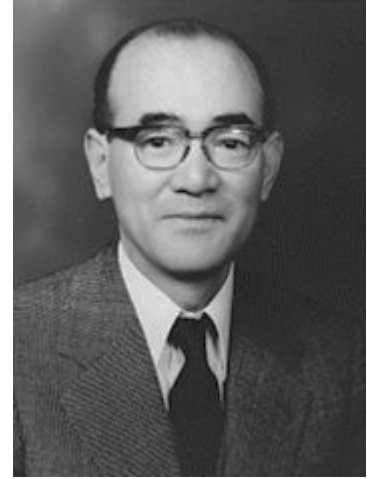
佐々木外喜雄 教授  
機械工学第五講座 (S15-35)  
機械工学第六講座 (S35-37)  
精密計測工学講座 (S37-43)



長尾不二夫 教授  
機械工学第四講座(S16-38)  
動力熱工学講座(S38-44)



河本 實 教授  
機械工学第二講座(S22-32)  
材料力学講座(S32-51)



奥島啓弐 教授  
機械工学第六講座(S25-35)  
精密加工講座(S35-50)  
精密加工工学講座(S50-52)



神元五郎 教授  
機械工学第三講座(S25-34)



平 修二 教授  
機械工学第二講座(S32-35)  
高温材料工学講座(S37-53)



佐藤 俊 教授  
機械工学第一講座(S34-37)  
流体工学講座(S38-40)  
伝熱工学講座(S40-58)



森 美郎 教授  
機械工学第三講座(S34-38)  
伝熱工学講座(S38-40)  
潤滑油圧工学講座(S40-H02)



大東俊一 教授  
機械工学第一講座(S37-38)  
熱力学講座(S38-54)



會田俊夫 教授  
精密機械要素講座(S37-50)  
機械要素講座(S50-54)





岡村健二郎 教授  
自動機械講座(S37-50)  
生産工学講座(S50-63)



遠藤吉郎 教授  
塑性力学講座(S37-40)  
機械材料学講座(S40-57)



大矢根守哉 教授  
機械工学第六講座(S37-38)  
機械材料学講座(S38-40)  
機械設計学講座(S40-50)  
塑性加工学講座(S50-61)

筆者の一人(牧野)はたまたま初代の朝永正三先生の担任された講座につながる講座に長くいたので、先生の肖像写真に接する機会が多くありました[14-16]。その写真からは明治の教授の威厳を感じてきていました。その後戦前までに教授に就任された先生方の写真からも、朝永先生が発しておられた明治の雰囲気を感じられます。戦後に教授に就任された先生方については、自身が講義を受け、また、ことばを交わす機会にも恵まれたためか、その写真からは威厳というより親近感を覚えます。読者の皆さんには、写真からどのような印象を受けられたでしょうか？

この記事の最後に、参考文献[1-20]を発行年月日順に列挙します。その文献の項には、大学史や教室の小史などの正史とも見做される書のみならず、教室あるいは教授に関係のあたりについて書かれたいわば外史をも含めています。文献[1-20]の筆者・編者殿には篤く感謝申し上げます。

## 参考文献

- [1] 『京都帝國大學史』、A5判、本文1265頁、たて書き、S18(1943).12.20。機械工学科については423-458頁に記載。 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1460809>
- [2] 京都大学七十年史編集委員会編『京都大学七十年史』、B5判、本文1281頁、S42(1967).11.03。機械系3学科については658-671頁に記載。
- [3] 『京都大学建築八十年のあゆみ』、京都大学歴史的建造物調査報告、B5判、本文107頁、京大広報別冊、京都大学広報委員会、S52(1977).06.01。
- [4] 京都大学工学研究科機械系工学専攻編『京都大学機械系工学教室の100年』、A4判、本文38頁、H09(1997).06.18。「京都大学機械系工学教室 講座・分野の流れ」図(文献[9]の流れ図に含まれる内容のもの)つき。

- [5] 京都大学百年史編集委員会編『京都大学百年史』、【総説編】、【部局史編1】、【部局史編2】、【部局史編3】、【資料編1】、【資料編2】、【資料編3】、【写真集】の全8巻、A5判、H09(1997)-H13(2001)、京都大学後援会。  
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/152877>
- [6] 前掲『京都大学百年史』、【部局史編2】第9章:工学部、2-294頁、H09(1997).09.30.。機械系3学科については88-119頁に記載。<http://hdl.handle.net/2433/152973>
- [7] 前掲『京都大学百年史』【写真集】、A4判、本文213頁、H09(1997).09.30.。
- [8] 京都大学百年史編集委員会編『京大百年』、A5判、本文96頁、H09(1997).11.02.。
- [9] 京都大学工学研究科機械系工学教室・第二世紀記念事業会編『京都大学機械工学教室の一世紀』、A4判、本文36頁、H12(2000).07.14.。「京都大学機械系工学教室・専攻 講座・分野の流れ」図(<http://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/keifu20130404.pdf>)つき。
- [10] 京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌編集委員会編『京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌』、A4判、本文245頁、H13(2001).03.22.、京都大学機械系工学教室第二世紀記念事業会。文献[9]の流れ図つき。「機械系工学教室小史」([http://www.keikikai.jp/dai2seiki/100nen\\_keizu/100keizu\\_ayumi.html](http://www.keikikai.jp/dai2seiki/100nen_keizu/100keizu_ayumi.html))を含む。
- [11] 富永 望「<論文>占領期における京大の自然科学研究—緊急科学体制から総合研究体制へ—」『京都大学大学文書館研究紀要』第17号、15-33頁、H14(2002).03.20.。田伏敬三教授の辞職願について21-23頁に掲載。<http://doi.org/10.14989/241001>
- [12] 西山 伸「<資料紹介>京都帝国大学創立五十周年懐古談話会記録」『京都大学大学文書館研究紀要』第1号、55-88頁、H14(2002).11.30.。金子登名誉教授(当時)の談話を60-63頁に掲載。<https://doi.org/10.14989/68836>
- [13] 久保愛三「われわれのルーツと朝永正三先生のノート」『京機短信』第28号、H17(2005).12.05.。[https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin\\_no28.pdf](https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin_no28.pdf)
- [14] 牧野俊郎「朝永正三先生のノート」『京機会ニュース』第18号、1頁、H18(2006)春。<https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/news18.pdf> カラー写真・“The Imperial College OF ENGINEERING”の文字を含む。
- [15] 牧野俊郎「朝永正三先生と佐瀬武雄さんの卒業證書(日本の高等教育史の貴重資料)」『京機短信』第79号、H20(2008).01.20.。  
[https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin\\_no79.pdf](https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin_no79.pdf) プロによる証書のカラー写真を含む。
- [16] 牧野俊郎「朝永正三先生と佐瀬武雄さんの卒業證書」『京都大学高等教育研究』第14号、105-110頁、H20(2008).12.。<https://hdl.handle.net/2433/70824>
- [17] 藤尾博重「朝永正三先生の卒業証書に関連して(その1~4)」『京機短信』第127-130号、H22(2010).01.20 - H22(2010).03.05.。  
[https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin\\_no127.pdf](https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin_no127.pdf) など
- [18] 京都大学大学文書館企画展『屏風に名を遺した教員たち』、A4判、H24(2012).11.06.。  
<http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/wp-content/themes/kyoto-u-2014/img/kanko/pdf/byobu72.pdf#search='京都大学 大学文書館 屏風'>  
 朝永正三氏・金子登氏らの筆になる署名の写真を含む。
- [19] 吉田英生ほか編「京機会所属研究室の系譜」『京機会HP』、H25(2013).04.15.。  
<http://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/keifu20130404.pdf>
- [20] 藤尾博重「朝永正三先生にとっての工部大学校と東京大学の合併と、その後(1~9)」『京機短信』第286-294号、H28(2016).09.20.-H29(2017).01.20.。  
[https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin\\_no286.pdf](https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin_no286.pdf) など